

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

山スキー三昧その1 根子岳

2月から3月にかけては、今年は結構山スキーを楽しんだ。2月25日は信高山岳会のメンバーと峰の原から根子岳に登った。9時40分、峰の原高原に終結。10分ほど歩いた



菅平グリーンゴルフ場の脇からシール登高を開始する。メンバーは、会の上平、重田、松田、杉山、下島、徳永、大西に加え、徳永さんのご主人、さらにはこの春妙高の国際アウトドア専門学校を卒業する小生の池工時代の教え子の関君を含めた9名である。まばゆいばかりの青空の下、一面雪に覆われたゴルフ場を奥ダボスから登ってくる尾根に向かって進む。歩き出してすぐに汗が噴き出し

てくるほどの陽気である。10:35 ダボススキー場方面との分岐を確認。下山時の集合場所として確認をする。ダボス方面から大型犬を連れた愛好家の集団が登ってきた。この場所にはそぐわず、あまり良い感じはしない。

10:55 避難小屋で一本取る。ロートル中心の隊ではあるが、ペースは速い。今から30年ほど前、丸子実業に在籍していたころ、菅平や根子岳はそれこそ足繁く通うホームグラウンドだった。当時上田高校にいた伊澤さんとは年に何回根子岳に登れるかを競ったりもしたのだが、「バックカントースキー」がこんな進化を遂げるとは思いもよらなかった。生活の本拠を東信から中信に移してからは、遠くなったが、徐々に昔の感覚がよみがえる。当時も山頂直下までピステがかけられていたが、多くの人へリスキーだった。しかし、事故があつて以来、雪上車がそれに代わって多くの人を山頂まで連れていく。11:10、1時間に1回上がってくる雪上車に抜かれた。12:00、雪が吹き飛ばされて山頂の岩が露出している小根子岳の直下で一本取り、最後の一登りにかかる。

山頂直下でもう一回雪上車に抜かれたが、乗っていたお客の一人が「よく歩いてくる気になるね」「何がよくて歩いて登るんだろうね」と話しているのが聞こえた。我々は、



そういうふう映っているのか。まさに「滑り屋」の感覚。我々「登り屋」とは異次元の世界か……。まあ、人それぞれである。12:19 雪上車の終点。そこから急坂を少し、喘いで登り、12:25、360度のパノラマが広がる山頂に到着。噴煙を上げている浅間が随分自己主張しているように見えた。

13:05 下山開始。登りとは別の沢コースを下ろうと滑り込んだが、表面はカリカリの最中状態の雪で、まったくスキーがいうことを聞かない。これでは、往生しそうで面白くないと、トラバースして登ってきた尾根に戻った。ピステがかけられてあるこちらはゲレンデ状態。ノンストップで下まで一気に滑り降りた。

13:35 ダボスとの分岐点に全員終結。13:40 無事下山完了。

山スキー三昧その2 天狗原

3月の卒業式のあと、山岳部の生徒と白馬乗鞍岳にでかけた。地元小谷出身の3年生も同行。山スキーは1年生が2名、2年生1名、3年生1名、ボードの1年生が1名、ツボ足の生徒は1年生1名、2年生3名。秋から代替講師としてお世話になっているO先生、OBのO氏とその友人のK氏、池工時代の教え子の関君にサポートをお願いした。



今回は日帰りだが、月末には乗鞍岳での1泊2日の合宿を予定している。その予行演習として、

生徒の足の状況の確認も兼ねての山行だ。

出発時の梅池は天気も上々、気分も上々だ。専門学校でガイド資格も取得した関君にビーコンの使い方と出発前のチェック、読図による現地確認を任せる。直属の先輩ではなくとも、年の近い彼の指導は、生徒たちには格好の目標とも映り、刺激にもなる。関君自身にとってもいい勉強の機会である。

ロープウェイも動いていたが、山岳部だからという理由（本当の理由は高校生は金がない）でロープウェイは使わず10時25分に歩きはじめる。早稲田小屋を過ぎ、大阪経済大学の小屋前で最初の休憩。成城の小屋脇を抜けて、天狗原への登りにかかる。関君が適度なアドバイスをしてくれるのでずいぶん助かる。池工時代にはずいぶん僕に怒られることもあった彼だが、そんな教え子がこうして卒業後も山に関わってくれるのを見るのは教師冥利につきる。雪山歩きはスキー隊にとってもツボ足隊にとっても生徒にとっては、こちらが考える以上にアルバイトを強いる。急坂の途中、2000m地点で一本取って息を整える。時間的にも体力的にも生徒たちには今日は、天狗原までが精いっぱいだろう。でも、それでいい。12:50 天狗原の祠に到着。O氏、K氏、関君の3名には「せ



っかくだからどうぞ」と白乗まで行ってもらうことにし、生徒たちは岩陰で昼食、大休止とする。持ち上げたラーメンを作った。たかが素ラーメンだが、温かい塩気は疲れた身体に染み渡る。ラーメンを食べ終えたころに

は、白乗隊が上から滑ってきた。生徒たちの目にはいつかは自分もという思いが湧いてきたことだろう。13:45 山岳部歌を歌い、下山を開始。15:40 全員無事下山完了。